

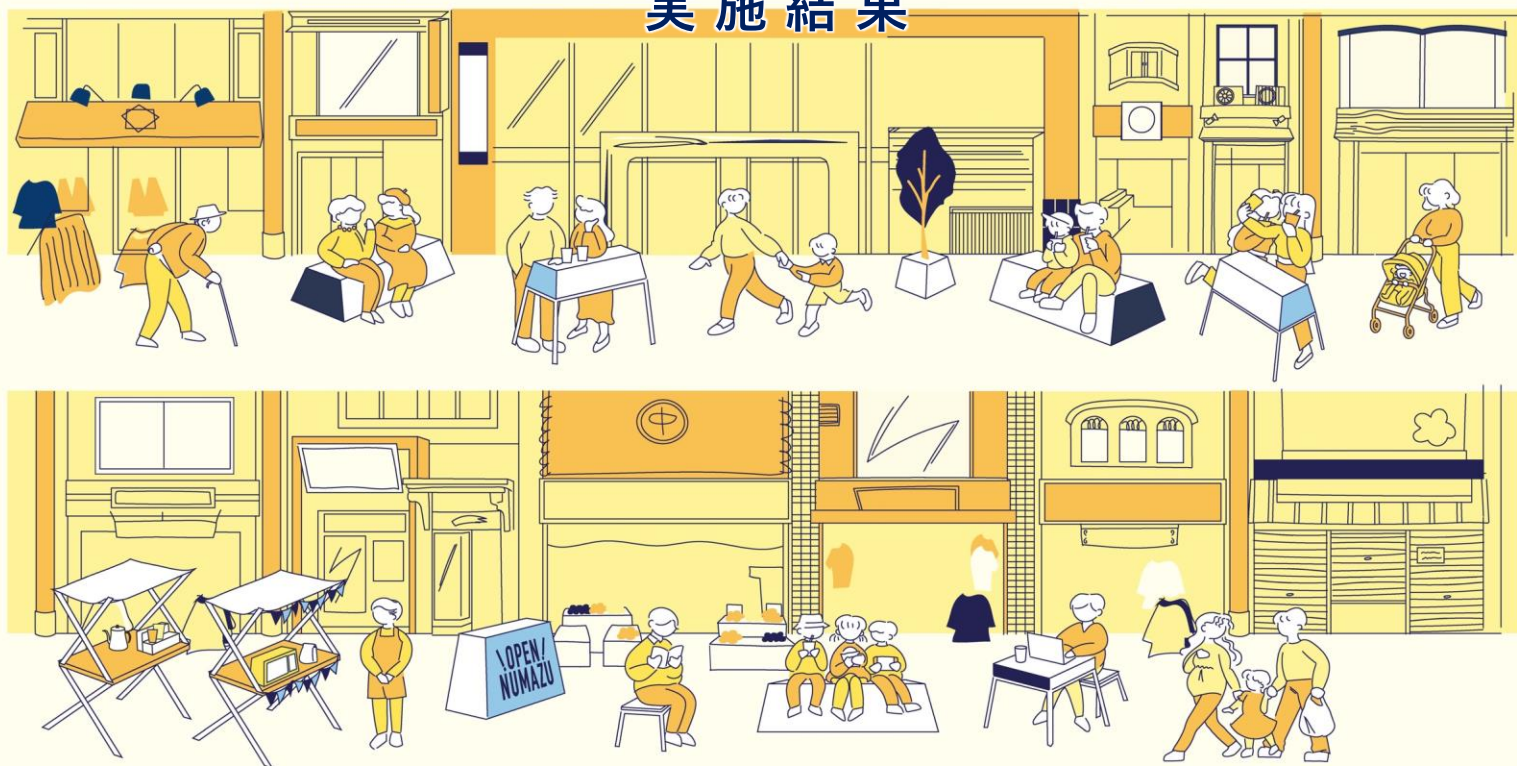
!OPEN! NUMAZU 2022

OPEN
NUMAZU

ARCADE

ヒラケ
ヌマヅ

実施結果



実施概要

【期 間】

令和4年10月27日（木）～11月15日（火）各日9時～19時

【場 所】

沼津仲見世商店街

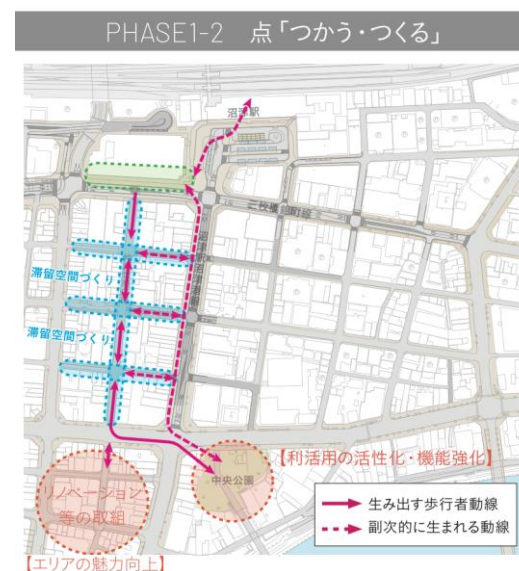


【内 容】

- 前回のOPEN NUMAZUで製作したイス・テーブルを用いた **通りとしての居場所づくり**。
- 都市空間デザインガイドラインの試行的な取組として、沿道店舗による地先空間活用など、**商店街と連携した空間づくり**。
- OPEN NUMAZUの取組に賛同いただける店舗の出店等による、**空間で過ごすためのきっかけづくり**。

【目的】

まちづくりシナリオで示すPHASE 1-2として、まちなかの回遊や滞留を生み出す空間づくりを商店街と共に実践。



目的 1

過ごしたくなる空間づくりを試行し、
来訪者の行動変容を把握する

目的 2

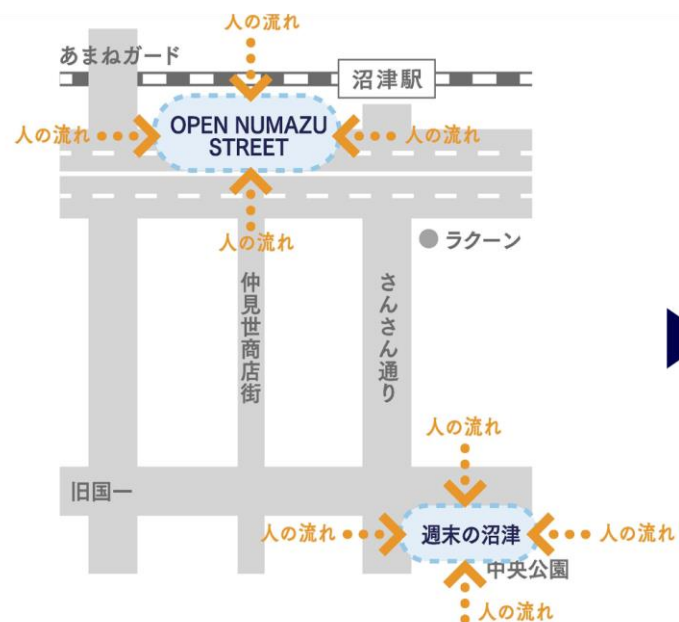
市民のまちの変化に対する期待及び
地域の公共空間利活用に対する機運を醸成する

目的 3

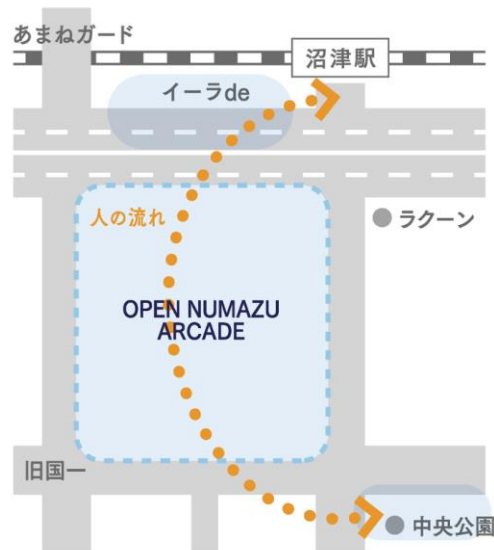
沼津駅と旧国一南エリアをつなぐ
日常の風景づくりにより、まちなかの回遊を促す

【ヒト中心のまちなかの実現に向けて】

まずは、ポテンシャルの高い場所から、公共空間の活用によって人がまちなかで過ごす風景をつくる。
それが日常的な風景となり、徐々に周辺エリアへと波及し、将来の駅前広場や駅前街路の活用につながることで、沼津駅周辺全体が歩きたくなる（＝**回遊**）、過ごしたくなる（＝**滞在**）、そんな魅力的なまちなかになることを目指す。



人が集まるポテンシャルの高い場所から
風景をつくる



点をつなぐように風景を展開し
回遊を生み出す

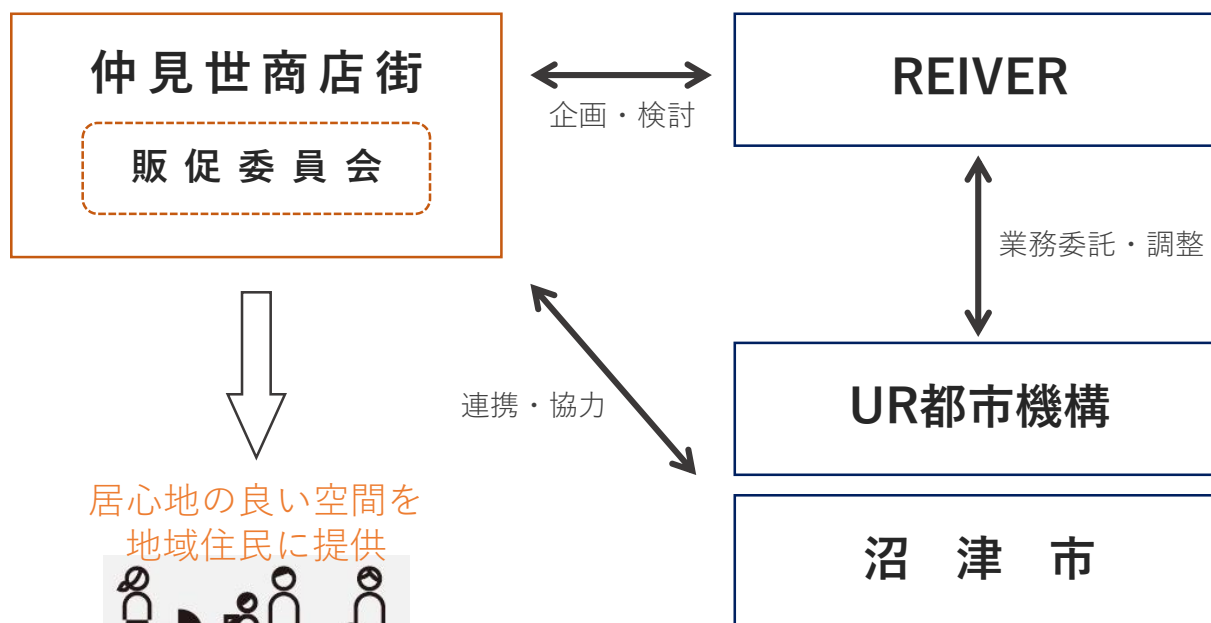


魅力的な風景が
まちの広範囲に広がる

実施体制

社会実験の実施業務を沼津市内の事業者である合同会社REIVER（レイバー）が受託し、仲見世商店街・UR都市機構・沼津市の共催で実施。

滞留空間の設置位置や設え、滞留を促すきっかけづくり等について、4者で定期的に打合せ・意見交換を行い、仲見世商店街が歩きたくなる、過ごしたくなる場所となるよう、検討を進めた。



- 沼津市戸田で宿泊施設や珈琲焙煎所も運営する建築設計事務所。
- 沼津市の空きビルを活用したまちなか居住促進事業の先導モデルケース支援業務も受託しており、昨年度はさんさん通りの“旧かとう靴店”、今年度は仲見世商店街の“丸天ビル”で実施。

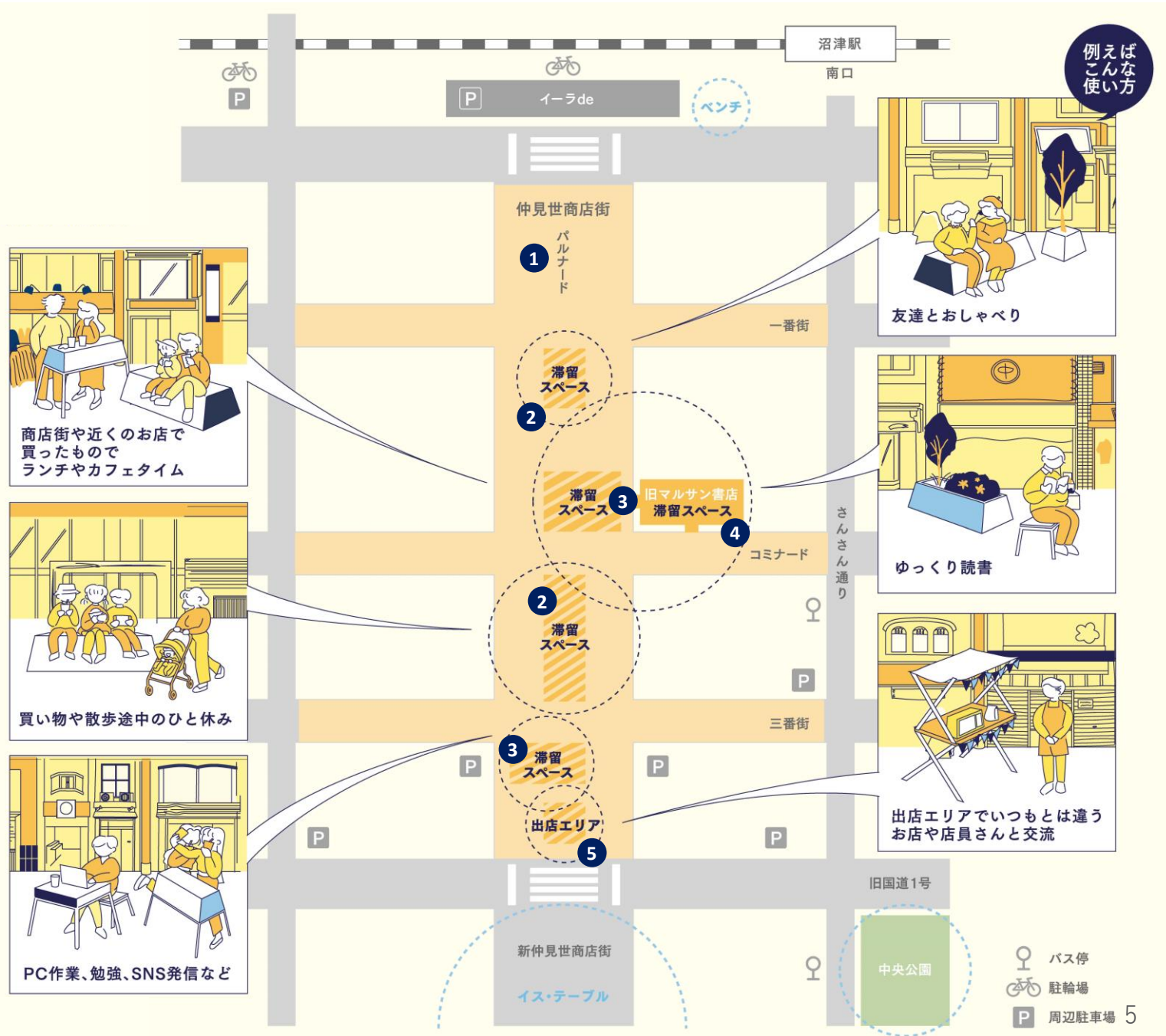
次年度以降も継続した取組を目指す

⋮

周辺エリアへの波及（沼津駅周辺、イーラde周辺、大手町商店街、駅前名店街...）

空間づくりの概要

- ① 風の影響を受ける可能性が高い北側の1つ目の街区（一番街以北）には什器の設置は行わない。
- ② 店舗が並ぶエリアにおいては、買い物途中のひと休憩や沿道店舗利用者の使用など、**比較的短時間の利用を狙い、通りの中央にイス・テーブルを設置する。**
- ③ 空き店舗や平面駐車場の前においては、**比較的長時間の滞在を狙い、まとまった滞留空間をつくる。**
- ④ 店舗前の滞留空間との連続性を意識して、旧マルサン書店1階内においても**滞留できる空間づくり**を行う。仲見世商店街と連携した写真等の展示や市立図書館と連携したリサイクル本の配布など、**まちなかで過ごすきっかけ**をつくる。
- ⑤ 沿道に既存の店舗が少なく、商店街との共存が図れること、また、新仲見世商店街や中央公園といった**旧国一南エリアと近接し、接続のきっかけ**となり得ることから、**南側の街区に出店エリアを設置**する。公募により本取組に賛同いただいた、計29店舗が出店。



店舗が並ぶエリア



旧マルサン書店前



OPEN!
NUMAZU

平面駐車場前



出店エリア



before



after



効果検証① 過ごしたくなる空間づくりを試行し、来訪者の行動変容を把握する

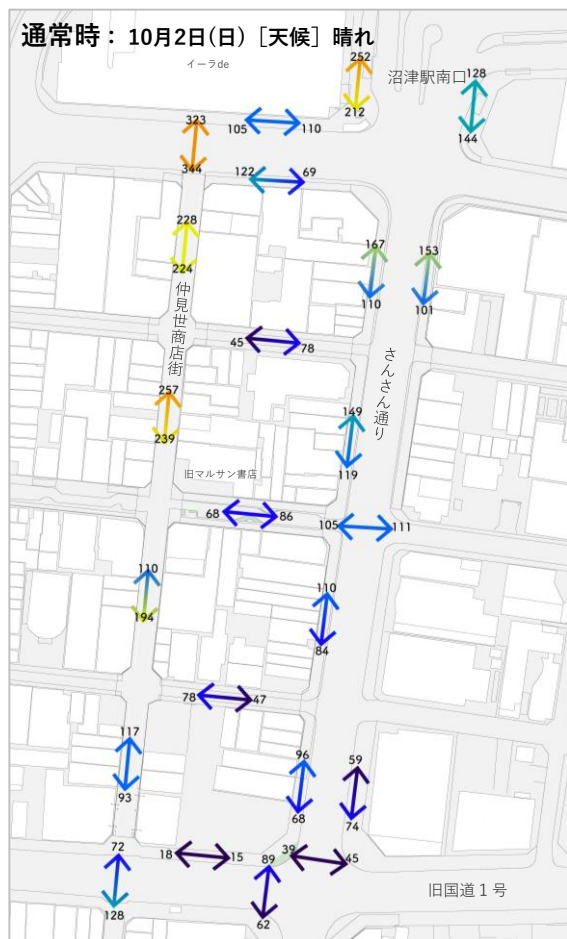
ゲートカウント調査

各地点で5分間にそこを通過する人数をカウント。10:00～17:00の各時間帯で実施した計8回の平均値を算出し、1時間あたりの人数に換算。

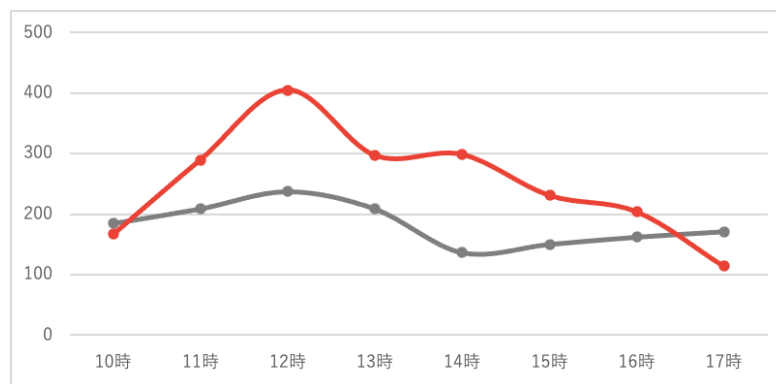
通常時と比べて、仲見世商店街の歩行者通行量は増え、旧マルサン書店前、出店エリアは約1.5倍に増加

イーラde周辺及び新仲見世商店街方面への歩行者通行量も併せて増加

【歩行者通行量分布】



【仲見世商店街の平均歩行者通行量の時間帯別変化】



※ パルナード（南北通り）の4地点の平均

OPEN NUMAZU 実施時 ●
平常時 ●

10月30日の実施コンテンツ

- 仲見世商店街
 - 出店エリアでの出店
 - リサイクル本
- 周辺エリア
- 特になし

人通り量(人/時間)

- 360人～
- 240-360人
- 180-240人
- 150-180人
- 120-150人
- 90-120人
- 60-90人
- 0-60人

効果検証① 過ごしたくなる空間づくりを試行し、来訪者の行動変容を把握する

スナップショット調査

調査員が目視により、滞留者の分布及び行動を記録。10:00～17:00の各時間帯で計8回の観測を実施。

通常時と比べて、仲見世商店街の滞留者（座っている人・立ち止まっている人）が約**2.1**倍に増加、座っている人に限ると約**3.4**倍に増加

【滞留者分布】

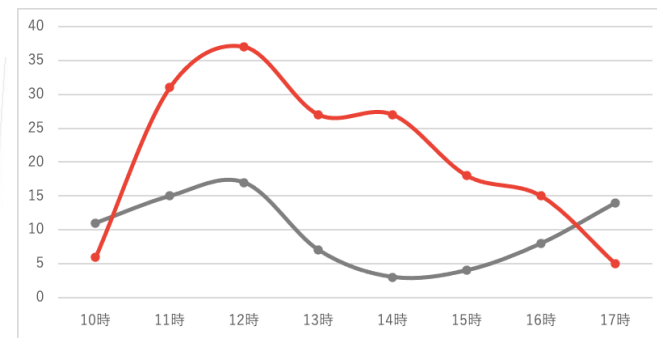
通常時：2022年10月14日(金) [天候] 晴れ

滞留者数 座っている人 → 平均 1.9人/回

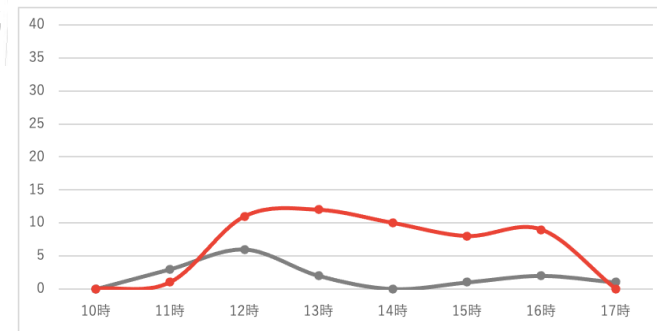
立ち止まっている人 → 平均 8.0人/回



【滞留者の時間帯別人数の比較】



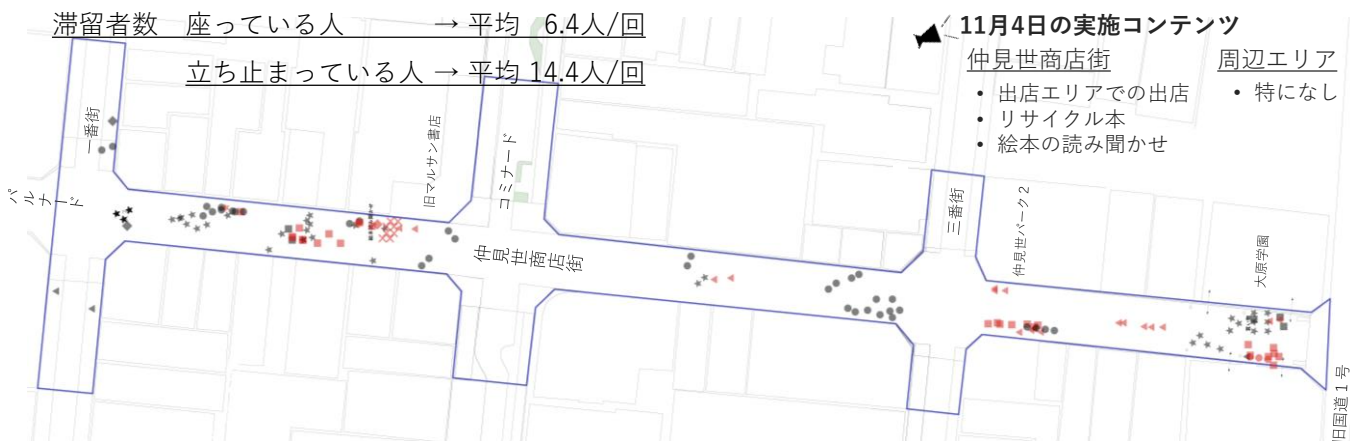
【座っている人の時間帯別人数の比較】



OPEN NUMAZU実施時：2022年11月4日(金) [天候] 晴れ

滞留者数 座っている人 → 平均 6.4人/回

立ち止まっている人 → 平均 14.4人/回



11月4日の実施コンテンツ

- 仲見世商店街
- 出店エリアでの出店
- リサイクル本
- 絵本の読み聞かせ
- 周辺エリア
- 特になし

OPEN NUMAZU 実施時 (赤線)
通常時 (黒線)

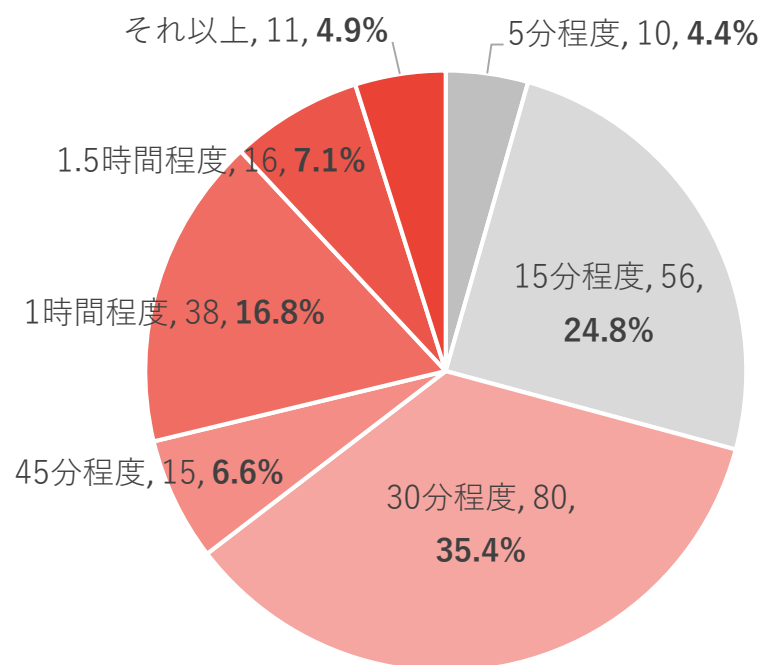
効果検証① 過ごしたくなる空間づくりを試行し、来訪者の行動変容を把握する

来訪者アンケート調査

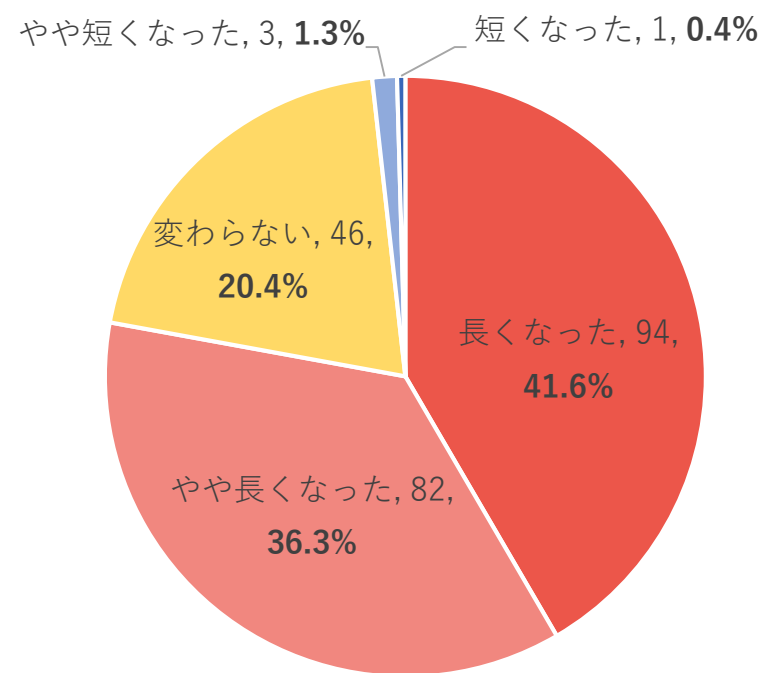
OPEN NUMAZU会場の来訪者を対象にアンケート調査を実施。（N=226）

来訪者の**70%**以上が**30分以上**滞在し、約**80%**が普段より**滞在時間が長くなった**と回答

【滞在時間】



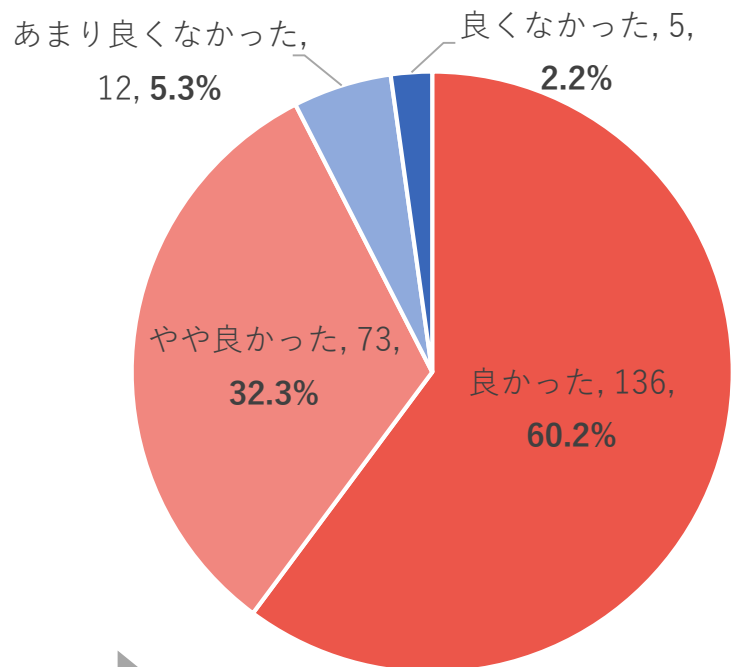
【滞在時間の普段からの変化】



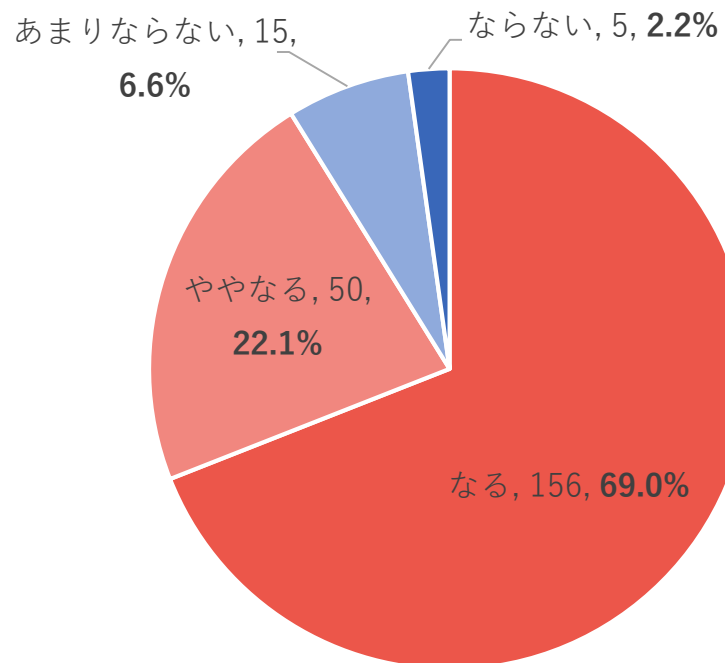
効果検証② 市民のまちの変化に対する期待及び地域の公共空間利活用に対する機運を醸成する

来訪者の90%以上が、OPEN NUMAZUに満足しており、今回のような空間づくりがまちなかを訪れるきっかけになると回答

【OPEN NUMAZUに対する満足度】



【今回のような空間づくりがまちなかを訪れるきっかけとなるか】



〔良かった理由〕

- いつもは素通りする人も多いと思うが、飲食をしたり、休憩をしたり、仲間見世で時間を過ごす人が増えていて、雰囲気が明るく感じた。
- 行ったことのないお店に触れる機会ができた。
- おしゃれなイス、テーブルに緑もあり、商店街を素敵な空間に変えることができていた。
- 座れるところ、食べられるところがあると友達を誘いやすい。
- 滞在時間が長くなり、各店舗の魅力を発見できた。
- 普段まちなかに腰を下ろして落ち着ける場所がないので、徒歩移動がメインとなる中心市街地には必要な取組に思えた。

〔良くなかった理由〕

- スケジュールを見て、お目当ての店が出ている日時にあわせて行かないと満足感はないように思える。
- 既存の店舗にもより活気が出てくると良い。
- 自転車を置ける場所がない。

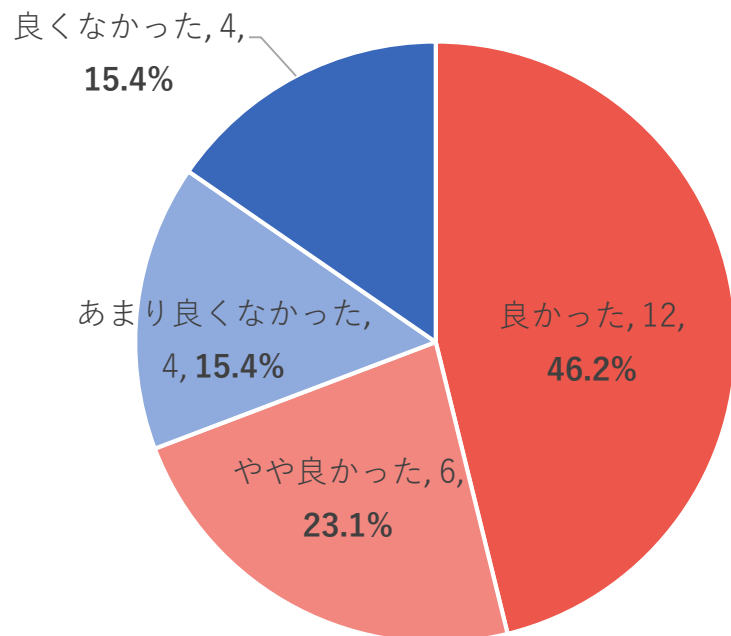
効果検証② 市民のまちの変化に対する期待及び地域の公共空間利活用に対する機運を醸成する

地元商業者アンケート調査

仲見世商店街の商業者等を対象にアンケート調査を実施。（N=26）

地元商業者の約70%がOPEN NUMAZUに満足していると回答

【OPEN NUMAZUに対する満足度】



〔良かった理由〕

- 仲見世の流れがゆっくりと感じ、笑顔も多く見られた。
- 人通りも多く、商店街に活気が生まれた。
- 歩行者の滞在時間が長くなったと感じる。
- 社会実験によって、公共空間活用の実績ができ、その目的や検証方法も明確になった。
- 今まで仲見世に足を運んでももらえなかった人達に来街する機会を提示することができた。
- 普段仲見世にこない人達にお店を知ってもらうことができた。
- ランチなど、普段の仲見世にない楽しみ方が生まれた。
- 今までなかなか出来ずにいた、テイクアウトにチャレンジすることができた。

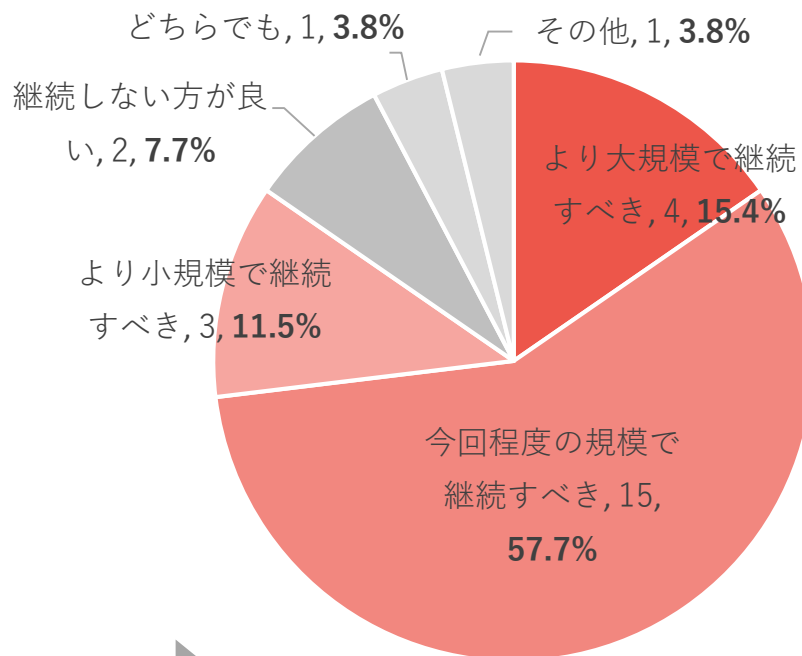
〔良くなかった理由〕

- 人出は増えたが、特に何の変化もなかった。
- 目的がわからなかった。
- もっと年配の方が来て喜ぶような取組があると良い。
- 強風を懸念してとのことだと思うが、1つ目の街区で什器の設置が行われなかったのが残念。

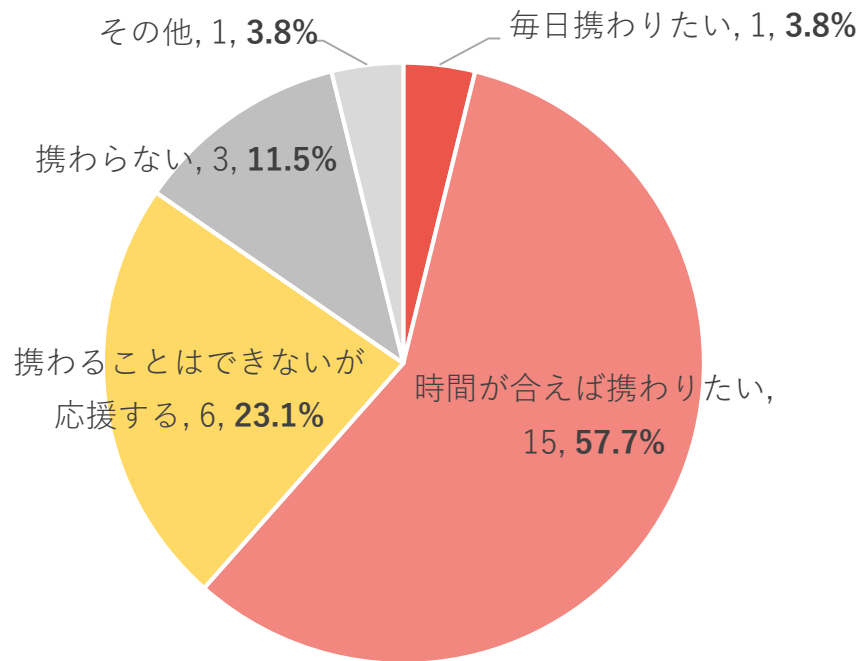
効果検証 ② 市民のまちの変化に対する期待及び地域の公共空間利活用に対する機運を醸成する

地元商業者の約85%が滞留空間づくりを今後も継続すべきと感じ、60%以上がその管理・運営に携わりたいと回答

【今後の継続した滞留空間づくり】



【滞留空間の管理・運営等への参加】



▶ [継続すべき理由]

- 継続することで、それが当たり前の文化になると良い。
- ゆっくりと買い物等ができると集客につながると思う。
- 空き店舗対策のためにも、仲見世に人が集まる雰囲気をつくりたい。
- まちの中を人が巡回するような流れをつくれると思う。
- 憩いの空間は商店街として必要なツール。
- 買い物客が休んだり、飲食したり、くつろげるスペースは必要。

[継続すべきでない理由]

- 通路が狭くなるので、継続するのであればもっと広い場所でやった方が良い。

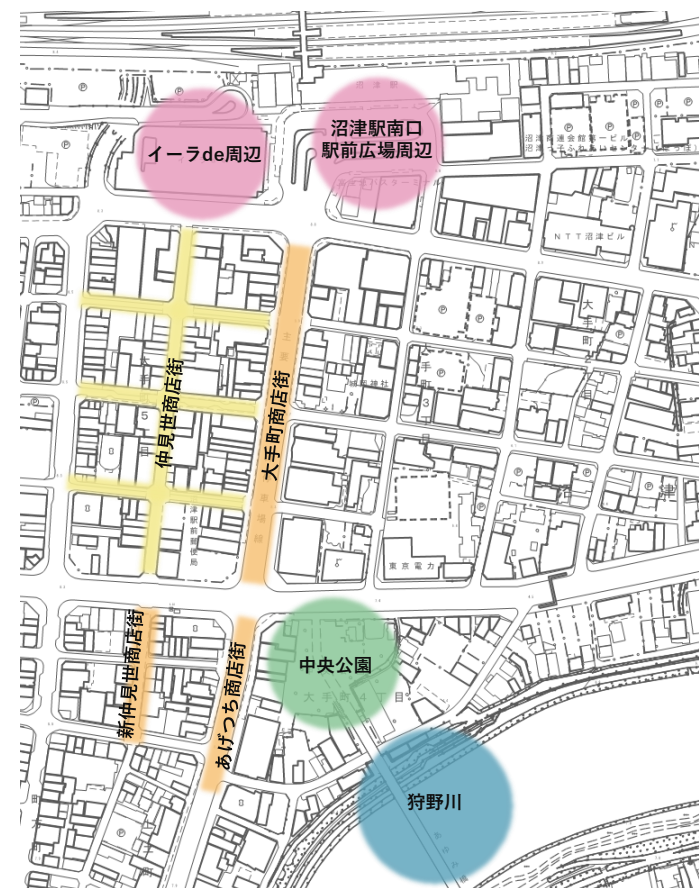
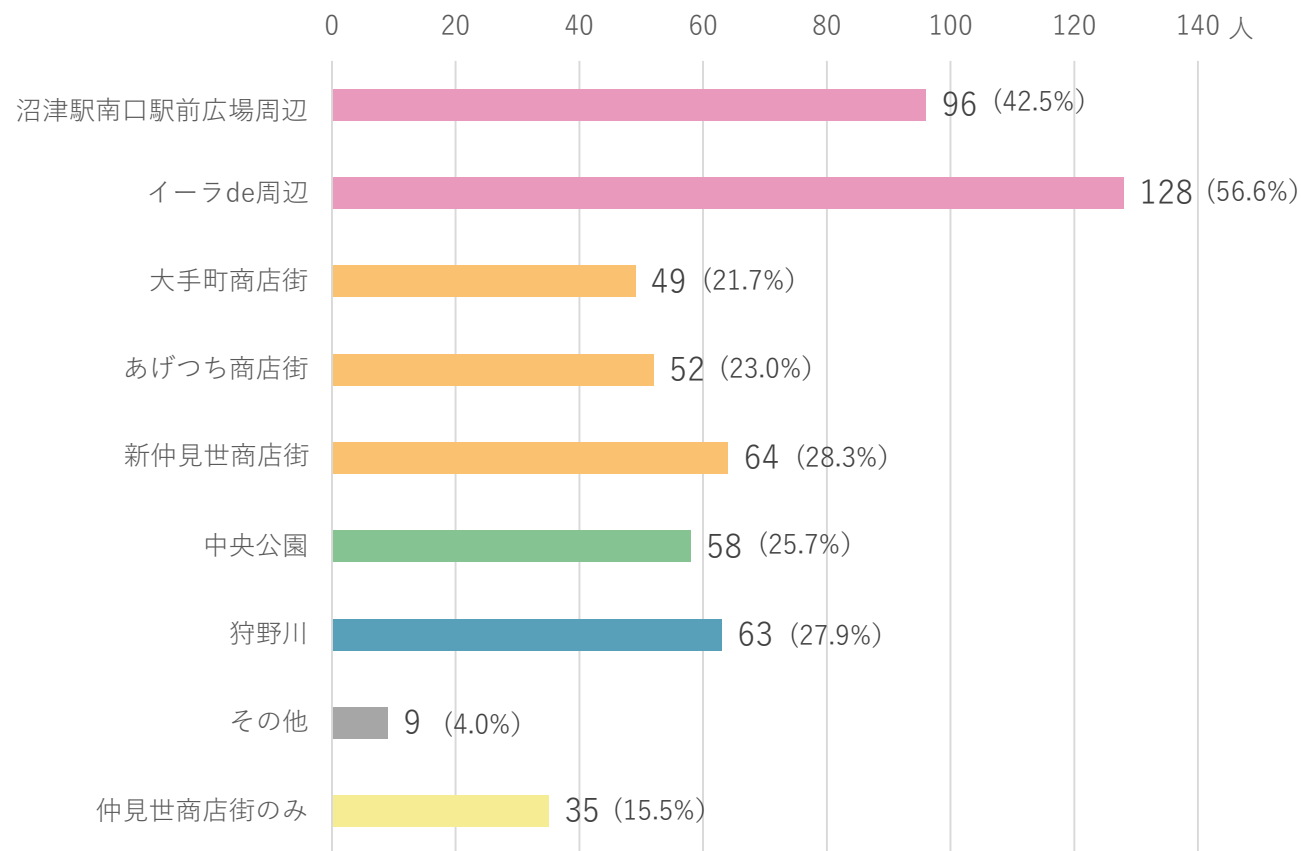
効果検証 ③ 沼津駅と旧国一南エリアをつなぐ日常の風景づくりにより、まちなかの回遊を促す

来訪者アンケート調査

OPEN NUMAZU会場の来訪者を対象にアンケート調査を実施。（N=226）

来訪者の約**85%**が仲見世商店街と併せて周辺のエリアも訪れ、約**半数**程度が沼津駅南口・イーラde周辺に立ち寄ったと回答

【仲見世商店街と併せて来訪したエリア】（複数回答可）



OPEN NUMAZU 2022 ARCADEで生まれた風景



OPEN NUMAZU 2022 ARCADEで生まれた風景



OPEN NUMAZU 2022
ARCADEで生まれた風景を
まとめた動画はこちら